

株主の皆様とNTTを結ぶ

NTT is...

2009 春

この絵には漢字1文字が隠れています。
答えは14ページにあります。





代表取締役副社長
う じ の り た か
宇 治 則 孝

NTTグループの技術戦略を統括する宇治則孝副社長に、ブロードバンド・ユビキタスサービスの本格展開に向けた戦略や取り組みなどについて聞きました。

Q 新しい中期経営戦略に込められた思いをお聞かせください。

A 昨年5月に「サービス創造グループを目指して」

という新しい中期経営戦略を発表し、お客様の視点に立ったサービスの充実を打ち出しました。NGN（Next Generation Network、サービス名「フレッツ光 ネクスト」）や第3世代携帯といったブロードバンドネットワークの特徴を活かした新サービスの拡充に取り組んでいます。

もちろんNGNのエリア拡大も進めていかなければならないのですが、お客様にとってはネットワークが変わることが重要ではなく、そのネットワークからお客様の皆様にメリットのあるサービスが出てきて初めて意味があるのです。そのため、ネットワークの拡大とネットワークに付加価値をもたらすサービス創造の両方を進めて、NTTグループの数年先を見据えた土台をつくっているところです。

Q ところで、NGNが話題になっていますが、どのようなネットワークなのでしょう。

A ブロードバンド・ユビキタス時代に向けて、ますますネットワークのトラフィックは増大していきますし、様々なアプリケーションやサービスが出てくることが期待されています。このため、世界的な標準化動向も勘案しつつ、今まで進めていた光ファイバー通信やIP技術を活用して、2008年3月よりNGNという新しいネットワークの提供を順次始めています。NGNは「オープンなインタフェース」「品質確保（QoS:Quality of Service）」「セキュリティ」「信頼性」といった特徴を持っており、インターネットの持つ利便性や経済性に、電話網で培った信頼性や安全性を付加したものと いえます。また、電話とインターネットに加え、映像配

信を合わせたトリプルプレイが簡単に実現できるようになります。

インターネットでは企業内の重要な情報をやり取りするのはセキュリティや品質上難しい面もありますが、NGNではネットワークでセキュリティや通信品質を確保しているため、信頼性の高い企業のネットワークをつくることも可能となります。

Q NGNによるサービスとはどのようなものがあるのでしょうか。

A 個人のお客様向けサービスの柱として考えているサービスにIPTVサービス（サービス名「ひかりTV」）があります。これまで私たちは見たいTV番組を見るためには、放送時間に合わせてチャンネルを合わせるか、録画して自分の好きな時間を楽しむというのが一般的でした。しかし、2008年12月に始まった「NHKオンデマンド」のようなVOD（ビデオ・オン・デマンド）を利用すれば、大河ドラマなどの番組も、好きなときに選んで見られるようになり、見逃したり、録画し忘れて残念ということがなくなります。また、IPTVサービスは、コンテンツ事業者や放送事業者と連携することで、このようなVODだけでなく、地上デジタル放送や多チャンネル放送も楽しめるようになります。これらを実現するために、映像配信の品質を担保する帯域確保や、配信先の制御、不正コピーを防ぐ技術など映像配信を行うための様々な技術的条件をクリアしています。

Q ビジネスシーンでも大いに活用できそうですね。

A 法人向けサービスの柱として考えているのが、SaaS（Software as a Service）です。SaaSは、企業内の重要な情報をネットワークを介して外部のサーバで処理するため、NGNの特徴である「セキュリティ」や「信頼性」と非常に親和性の高いサービスなのです。

SaaSを使うと、ビジネススタイルが変わってきます。これまでは会計ソフトなどを購入し、利用していましたが、これからは業務に必要なソフトを必要なときに、必要な分だけシステムに接続して、利用することができるようになるのです。SOHOや小さな企業だと、情報システムを構築し、さらにそのためにシステム管理者を専任で配置することはコスト面などから難しい場合がありますが、SaaSを活用すれば、この問題を解決することができるのです。

また、NGNを利用した映像コミュニケーションサービスとしてテレプレゼンス（高精細で臨場感のあるテレビ会議システム）などがあります。日頃のコミュニケーションにおいて電子メールやFAXなど、文字のやり取りだけでは誤解が生じることも、会ってお話をすると簡単に、瞬時に解決できることがあります。だからこそ、日頃、私は人に会って話をすることはとても大切なことだと思っています。しかしながら、時には時間的に、物理的に出向くことに無理が生じることもあります。皆様にも、遠くに住む友人やお孫さんなどと会いたくても会えないというときもおありかと思います。こうした思いも臨場感あふれる映像コミュニケーションサービスを使えば、解決することができます。昔



のTV電話と違って大幅に画質も向上し、場を共有するための技術もたくさん使われています。例えば、お互いに何人か並んで話をしているとき、話した人の方向から声が聞こえるような技術などがあります。先日、テレプレゼンスを使って、アメリカと日本との間で会議を開きましたが、まるでその場で話し合っているような臨場感がありました。この臨場感と利便性を皆様にも体験していただけるようになります。

セキュリティや信頼性の高いネットワークになったことで、遠隔医療への応用や、高い個人情報保護が求められる金融システムなど、新たな分野でのサービスも生まれてくると考えています。



ここまでNGN上で展開するサービスの例をいくつかお話しましたが、重要なことは、NGNを使ってビジネス展開を行う事業者の方々とのコラボレーションだと考えています。そして、そこから生まれてくるサービスに大いに期待しています。

Q 情報通信技術 (ICT) を活用することで環境への負荷を軽減できるとお聞きしましたが。

A ICTは私たちの生活を豊かにするとともに、私たちの暮らしを守るものでもあります。NTTグループとしても、環境について様々な取り組みを行っています。大きくは2つあって、ICTの利活用により世の中全体の環境負荷を軽減することと、NTTグループ自体の電力消費量削減、CO₂の削減といった取り組みです。

ICTの利活用による環境保護ですが、一例として映像コミュニケーションやテレワークがあります。遠くにいる人のところへ電車や車、飛行機といった交通機関を使って移動しなくても、その場を共有しているかのように話ができるようになれば、移動の際に排出していたCO₂の削減が可能です。ICTの消費電力などを含めても、ICTを使うことで環境負荷の大幅な軽減につながるという試算結果も出ています。

また、NTTグループ自体の取り組みですが、「グリーンNTT」を提唱して、太陽光発電などのクリーンエネルギーシステムの導入やデータセンタなどへの直流給電方式の導入で、電力量削減とCO₂の削減を進めています。

Q 「サービス創造グループ」として研究開発を進めている中で、今後どのようなサービスが出てくるのでしょうか。

A NTTの研究所ではネットワーク技術、コミュニケーション科学、物性・材料科学、環境エネルギーなど様々な分野の研究を行っています。例えば、量子コンピュータや光メモリといった何十年も先の研究も行っていますし、次の時代のネットワークアーキテクチャに関する研究も行っています。

研究所で実用化開発した技術を用いてこれからサービス展開しようとしている例をあげると、「デジタルサイネージ」があります。電車の中のディスプレイやビルの壁面にある大型ディスプレイで広告を流しているものです。今まではそれぞれ個々の広告を流していましたが、これをネットワーク化し、全体の制御を行うシステムを開発してビジネスに活かせるか検証しています。場所や時間帯、性別、年齢、人数など様々な特性に応じて、TPOに合わせた最適な広告を配信し、広告の効果を高めるのです。

他にも携帯・固定との連携したサービスや「ホームICT」などについてもこれから展開を進めていきます。携帯・固定の連携サービスとしては、IPTVサービスやgooの検索機能を、携帯電話からもPCと同じように利用できるようにすることなどを進めています。

また「ホームICT」ですが、PC以外にもゲーム機やテレビ、デジタルフォトプレーヤ、ドアホンなどの家庭にある機器をNGNに接続し、外出先でのドアの施錠確認や、遠く離れた家族とテレビを使った写真や映像の共有、遠隔からの機器の設定や故障時の切り分けといった様々なサポートサービス、外出先や家で仕

事のできるバーチャルオフィスといった、生活をより安心・安全で豊かにするようなサービスの開発を進めています。

Q 最先端の通信技術を活かしたサービスが数多く生まれてくるんですね。

A 技術的にできるということと本当に使いやすいサービスにはギャップがあります。NTTの研究所は世界でもトップクラスの研究を数多く行っていますが、使い勝手の観点などで反省すべき点も多々あります。

このように、研究所だけでは解決が難しい問題や、お客様志向のビジネス展開を推進していくためには、NTTグループの総合力が重要だと考えています。そのために外部との連携だけでなく、グループ内のコラボレーションを進める取り組みとして、「タスクフォース」と呼ぶグループ各社が議論する場を設定し、推進しています。

また、サービス融合やグローバルの時代に向け、よりワールドワイドな視点も不可欠になってきています。これまでも、NGNの標準化活動や、光部品技術などの海外展開を進めておりましたが、これからは様々な国々の通信事業者やパートナー企業とも連携して、研究開発成果の普及展開活動やビジネス展開にも取り組んでいく必要があると考えています。

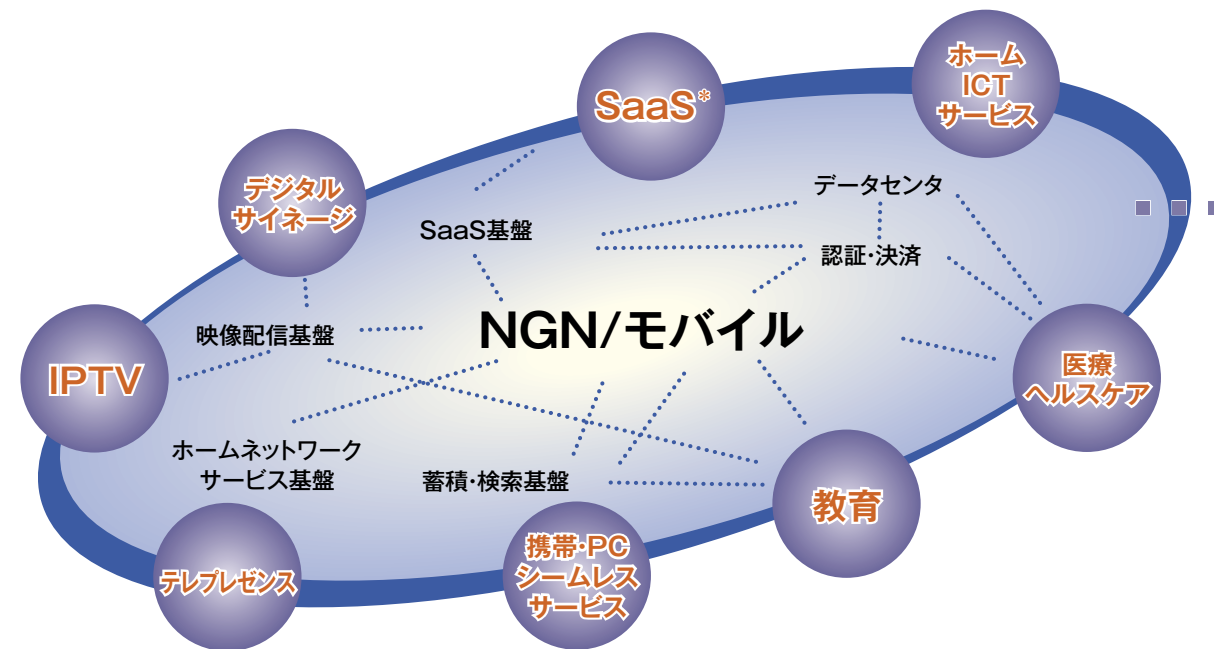
NGN上のサービスを多くの企業とのコラボレーションにより創り出していき、日本経済の成長力の1つになればと思っています。

研究開発(R&D)の取り組み状況

NTTグループは、2008年5月に新たな中期経営戦略「サービス創造グループを目指して」を発表し、次世代ネットワーク(NGN)およびモバイルを中心とした情報通信技術(ICT)を積極的に拡充し、様々なパートナーの皆様と協力・連携しながら、新たなブロードバンドサービスを実現していくことを掲げました。

この中期経営戦略の実現に向けて重要な役割を担うNTTの研究開発(R&D)の成果や実証実験の取り組み状況を紹介します。

ネットワークとアプリケーションの融合によるサービス創造

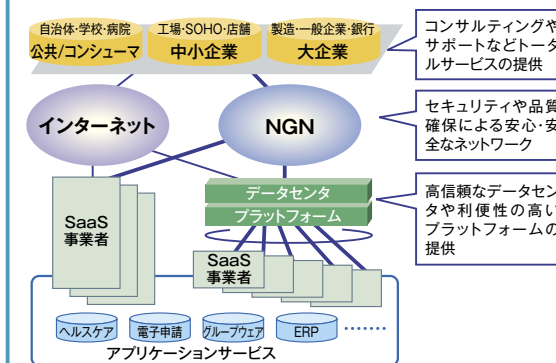


*SaaS (Software as a Service) : ソフトウェアをネットワーク経由で提供するサービス

～サービス創造グループの実現に向けて～

SaaS (Software as a Service)

様々なパートナーの皆様と協業・連携して、NGNを中心とした安心・安全なICT基盤上に新たなSaaS市場を創造



デジタルサイネージ

鉄道や大型商業ビルなどへの導入が増加している屋外のディスプレイを新たな広告メディアとして捉え、ネットワークを活用した複数のディスプレイへ一元的な配信、広告効果測定の技術を開発

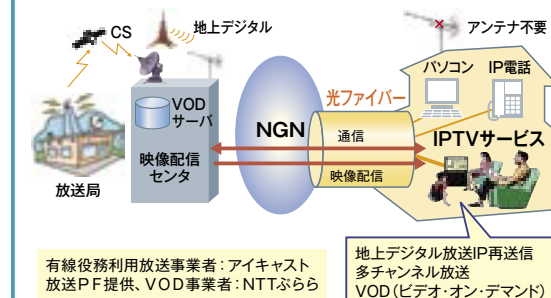


場所や時間帯、状況に合わせて最適な広告配信を可能に

デジタルサイネージが広告メディアとして価値を確立し、メディア化を推進するため、1日350万人が視聴可能な規模でフィールド実験を行いました。(実施時期：2009年2月16日(月)～3月15日(日))

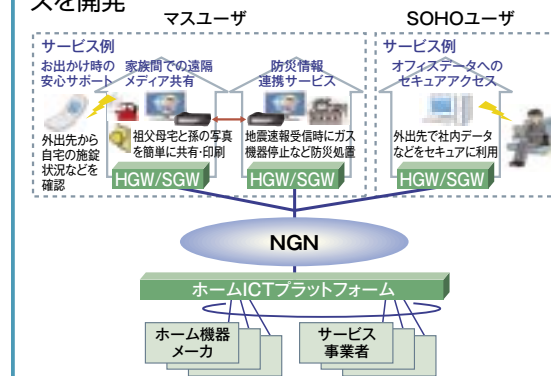
IPTV (新映像配信サービス)

- ハイビジョンのTV映像をご家庭まで配信する新映像配信サービスを提供(サービス名：ひかりTV)
- 今後は通信の双方向性を生かしたIPTVならではのサービスを開発、検討(ひかりTVラボ)



ホームICTサービス

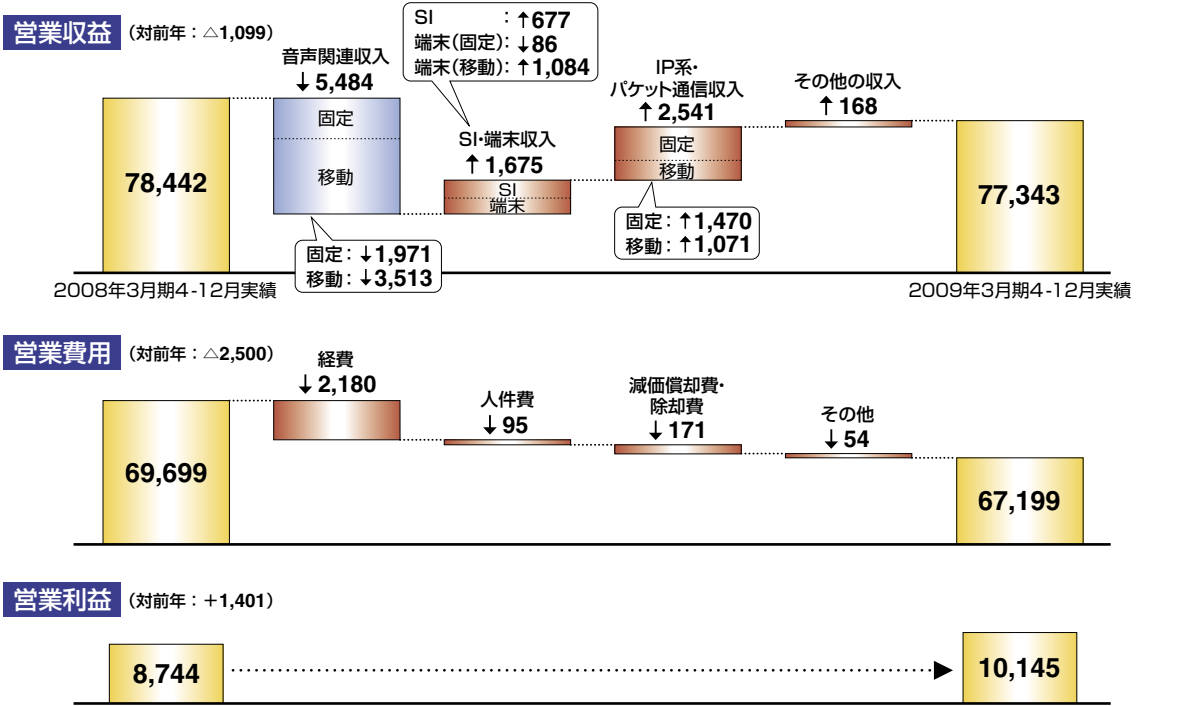
nonPCを中心としたホーム機器とネットワークの活用により、ご家庭における活動の様々なシーンを支援して、生活を安心・安全・便利・豊かにするサービスを開発



第3四半期(累計)の決算概要

- 営業収益は前年同期と比べて1,099億円(1.4%)減少の7兆7,343億円
「フレッツ光」の契約数拡大などによりIP系収入が増加したものの、固定電話加入数の減少や携帯電話の割引サービス拡大により音声関連収入が減少したため。
- 営業費用は前年同期と比べて2,500億円(3.6%)減少の6兆7,199億円
携帯電話端末機器原価や代理店手数料などの経費が大幅に減少したこと、および減価償却費が減少したため。
- 営業利益は前年同期と比べて1,401億円(16.0%)増加の1兆145億円
- 2009年3月期の通期業績予想は変更なし
景気悪化による厳しい経営環境にありますが、通期業績予想は2008年11月公表(営業収益:10兆5,800億円、営業利益:1兆1,600億円、当期純利益:5,600億円)から変更していません。また、2009年3月期の期末配当予想(1株当たり55円。株式分割前のベースで5,500円)についても変更していません。

前年同期比増減の内訳(科目別) (単位:億円)



本誌に記載されている予想数値および将来の見通しは、不確定性・不確実性を含んでおり、実際の業績などにつきましては、今後の経済や情報通信業界内外の動向、新たな技術・サービスや料金水準などにより変動することがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

連結および主要な会社別損益状況

NTT連結とは、NTTグループ連結子会社474社、持分法適用会社85社の連結決算を表しています。ここでは、主な5社として、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモを掲載しております。

(単位:億円)

区 分	NTT連結 ※1	NTT東日本 ※1	NTT西日本 ※1	NTT コミュニケーションズ ※1	NTTデータ ※1	NTTドコモ ※1
営 業 収 益	77,343	14,515	13,589	8,370	7,747	33,788
(対前年増減額)	(△1,099)	(△289)	(△501)	(△98)	(602)	(△1,433)
(対前年増減率)	(△1.4%)	(△2.0%)	(△3.6%)	(△1.2%)	(8.4%)	(△4.1%)
(通期業績予想)	(105,800)	(19,600)	(18,540)	(11,220)	(11,200)	(45,970)
(進 捗 率)	(73.1%)	(74.1%)	(73.3%)	(74.6%)	(69.2%)	(73.5%)
営 業 費 用	67,199	14,134	13,466	7,554	7,063	26,320
(対前年増減額)	(△2,500)	(△185)	(△394)	(3)	(582)	(△2,651)
(対前年増減率)	(△3.6%)	(△1.3%)	(△2.8%)	(0.0%)	(9.0%)	(△9.1%)
(通期業績予想)	(94,200)	(19,200)	(18,490)	(10,120)	(10,150)	(37,670)
(進 捗 率)	(71.3%)	(73.6%)	(72.8%)	(74.7%)	(69.6%)	(69.9%)
営 業 利 益	10,145	380	122	815	683	7,468
(対前年増減額)	(1,401)	(△103)	(△106)	(△102)	(19)	(1,218)
(対前年増減率)	(16.0%)	(△21.4%)	(△46.4%)	(△11.2%)	(3.0%)	(19.5%)
(通期業績予想)	(11,600)	(400)	(50)	(1,100)	(1,050)	(8,300)
(進 捗 率)	(87.5%)	(95.2%)	(245.6%)	(74.1%)	(65.1%)	(90.0%)
税引前利益	10,448	※2 662	※2 224	※2 944	※2 673	7,094
(対前年増減額)	※3 (1,699)	(11)	(△138)	(△61)	(16)	(807)
(対前年増減率)	(19.4%)	(1.7%)	(△38.1%)	(△6.1%)	(2.5%)	(12.8%)
(通期業績予想)	(11,500)	(700)	(100)	(1,100)	(1,010)	(8,140)
(進 捗 率)	(90.9%)	(94.7%)	(224.1%)	(85.9%)	(66.6%)	(87.1%)
四半期純利益	5,441	729	164	736	361	4,377
(対前年増減額)	※3 (2,219)	(△132)	(110)	(244)	(△22)	(612)
(対前年増減率)	(68.9%)	(△15.4%)	(205.9%)	(49.8%)	(△5.8%)	(16.3%)
(通期業績予想)	(5,600)	(760)	(60)	(820)	(540)	(4,950)
(進 捗 率)	(97.2%)	(96.0%)	(274.2%)	(89.8%)	(66.9%)	(88.4%)

※1 当社およびNTTドコモは米国基準(連結)、NTT 東日本、NTT 西日本およびNTT コミュニケーションズは国内基準(単独)、NTT データは国内基準(連結)に準拠して作成しております。

※2 NTT 東日本、NTT 西日本、NTT コミュニケーションズおよびNTT データの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。

※3 NTT連結の税引前利益および四半期純利益における対前年増減額および増減率は、PLDT社の持分法適及適用後の数値と比較しております。

東日本電信電話株式会社

NTT東日本

西日本電信電話株式会社

NTT西日本

ベネッセと「安心・快適な学習環境の提供」に向けて協業

NTT東日本、NTT西日本(以下、NTT東西)および株式会社ベネッセコーポレーション(以下、ベネッセ)は、NTT東西が提供する「フレッツ光」と、ベネッセが提供するインターネットを利用した通信講座「進研ゼミ中学講座+i(プラスアイ)」を活用して中学生向けに安心・快適なネット学習環境を提供することを目的に、協業することで合意いたしました。

本協業では、NTT東西は、プラスアイの利用に際して、パソコン設定やインターネット環境に不安を抱えているご家庭に向けた、「フレッツ光」、「セキュリティ対策サービス」、パソコンなどの設定を専門のオペレータが遠隔でサポートする「リモートサポートサービス」をパッケージ化した「プラスアイ安心接続サポートパック」を提供し、安心・快適な学習環境の準備をサポートします。

また、今後も、各社のノウハウを連携させ、最適な学習環境を提供するため、様々な取り組みを推進していきます。

提供イメージ

学 習

進研ゼミ 中学講座 +i

+

快 適

FLET'S 光 フレッツ光

+

安 心

セキュリティ対策サービス
リモートサポートサービス

プラスアイ安心接続サポートパック

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

NTT Communications

情報家電の高度利活用技術の研究開発に関するフィールド実証実験を実施

ユビキタス社会の進展に伴い、ご家庭での情報家電端末の利用シーンが増えています。情報家電および情報家電向けのサービスが家庭内に一層浸透していくためには、利用者個々の特性や要望に応じたサービスを「簡単」「安心」「安全」に利用できる環境が求められています。

NTTコミュニケーションズと三菱電機株式会社は、総務省が実施する「情報家電の高度利活用技術の研究開発」に基づき、実験パートナー企業との連携のもと、情報家電の設定を簡素化する技術や高度な認証技術などを検証・評価するとともに、情報家電の利活用モデルの有用性を評価するフィールド実証実験を実施しました。

本フィールド実証実験で得た成果を学会などへ発表し、広く標準化を進めるとともに、今後も情報家電を用いた安心・安全・便利なインターネットサービス利用に関する研究開発を進め、情報家電利用者への新しい価値、ライフスタイルの提案や、新たなビジネス機会の創出に取り組んでいきます。

情報家電の設定を簡素化する技術、高度な認証技術

実験サービス名	テレビ番組リマインドサービス『かざしてリマインダー(仮称)』	独居高齢者見守り・健康サポートサービス『みまもりアシスト(仮称)』
実験パートナー企業	日本テレビ放送網株式会社	安全センター株式会社
実験サービスの概要	●テレビ番組広告が表示される実験用ディスプレイに、見たい番組の広告が流れている時に、携帯をかざすことで登録 ●放送前に、登録に基づき、携帯メールが届き、見忘れを防止。放送後にアンケート	●ドア・玄関・冷蔵庫・戸棚・鍵などに小型の振動センサーを設置。一定時間振動センサーに反応が無い場合、警報装置からアラーム。その後、さらに反応がない場合、センターから安否確認 ●振動センサーからの情報を長期的に蓄積し、健康管理に活用
実験サービスの特徴	●おサイフケータイをかざすだけの簡単な操作で、手軽にサービスの登録が可能 ●放送後のアンケートなどを実施することにより、視聴者の意見など収集可能	●無線振動センサーをドアや扉に設置することにより、利用者が機器を身につける煩わしさや抵抗感を軽減 ●小型の振動センサーを使用することで、センサーの設置が容易となり、追加や移動なども柔軟に対応可能

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ



「FairCast®-子ども安全連絡網」がグッドデザイン賞を受賞

NTTデータがサービスを行っている「FairCast®-子ども安全連絡網」が、このたび「2008年度グッドデザイン賞」で本年度より新設された「産業・社会領域:ソリューションビジネス、サービスシステム」の категорияにおいて、初受賞しました。

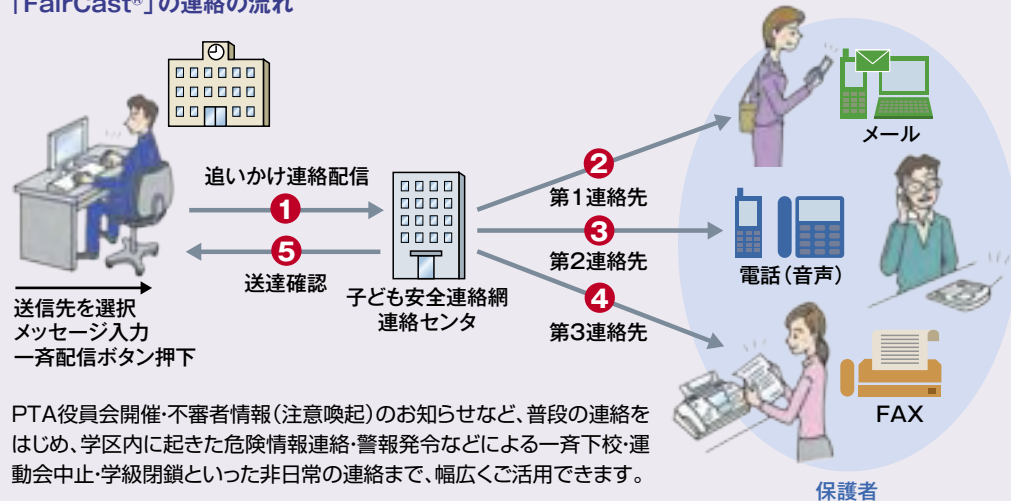


本サービスは、従来の電話連絡網に代わり、すべての保護者・教職員・自治会などの方々に対して常に複数のメディア（メール、電話、FAX）に一斉連絡する仕組みで、2006年7月からサービスを開始し、2008年10月現在、約10万世帯が加入しています。

今回の受賞では、昨今社会問題化している子どもの安全確保について、地域で子どもたちの安全を守るという考え方のもと、関係者が共有すべき緊急情報や連絡情報を、メディアを通じて公平かつ効率的に確保できるほか、1家庭あたりの低廉な利用料が実用性の高さにつながる点などが高く評価されました。

NTTデータでは今後、「FairCast®」の社会インフラとしての信頼性やお客様満足度のさらなる向上を目指し、使い勝手やセキュリティの強化、センタ設備や処理能力の増強などの各種対策を順次実施します。

「FairCast®」の連絡の流れ



PTA役員会開催・不審者情報(注意喚起)のお知らせなど、普段の連絡をはじめ、学区内に起きた危険情報連絡・警報発令などによる一斉下校・運動会中止・学級閉鎖といった非日常の連絡まで、幅広くご利用できます。

*「FairCast®」は、株式会社NTTデータの登録商標です。

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ



価値観やライフスタイルに合わせた新シリーズを展開

NTTドコモは、これまで「90Xi」および「70Xi」で展開してきた端末シリーズを刷新し、2008年11月から新シリーズを展開しました。お客様の価値観やライフスタイルに合った携帯電話をお選びいただける端末シリーズに刷新するとともに、今後お客様の期待に応える端末を提供してまいります。



docomo STYLE series™

“自分らしい”がきっと見つかる。
選べるファッショナブルケータイ。

様々なデザインやカラーから選べるファッション性の高いシリーズとなっており、ケータイをファッションアイテムの1つとして楽しめます。



docomo PRIME series™

フルに楽しむ。先取りする。
新世代エンタテインメントケータイ。

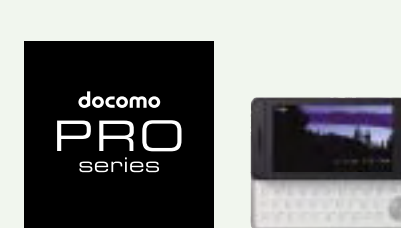
映像やゲームなど、エンタメ機能が充実したシリーズとなっており、旬のケータイエンタメを存分に楽しめます。



docomo SMART series™

ONもOFFもマネジメントする。
大人のインテリジェントケータイ。

ビジネスとプライベートを両立させたい大人のためのシリーズとなっており、ビジネスツールとして役立つ機能を搭載するとともに、上質感のあるデザインを採用しています。



docomo PRO series™

先進テクノロジーを自在に操る。
デジタルマスターケータイ。

最新技術を搭載した、デジタルツールの先端をいくシリーズとなっており、パソコンに近い操作感により、自分仕様のデジタルツールとして快適にお使いいただけます。

NTTグループ会社の紹介

NTTグループ会社の中から、エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社をご紹介します。

エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社



NTTビジネスアソシエは、NTTグループにおける経理・財務、人事・給与、福利厚生、社宅管理、年金、健康保険などの間接業務を集中・統合し、一手に担う企業として設立され、コストの削減やサービス品質の向上だけでなく、サービス提供を通じて得られる知識やノウハウを活かした新規施策・制度改革の提案を通じて、NTTグループの競争力と利益の増大に貢献してきました。

国際生産性本部(IQPC)の「シェアードサービス※最優秀企業賞」を日本企業で初めて受賞

NTTビジネスアソシエは、設立以降の約10年にわたる実績に裏打ちされたサービス品質の高さに加え、NTTグループ以外の企業にもワンストップでサービスの提供を行う独特の事業展開などを総合的にご評価いただき、2008年4月、国際生産性本部(IQPC)主催のイベント「Shared Services Week 2008」において、「シェアードサービス最優秀企業賞(Best Mature Shared Services Organization)」を日本企業として初めて受賞しました。本賞は、世界のシェアードサービス企業や組織の中から、そのサービスの成熟度や品質などで最高の評価を得た企業に与えられる賞です。

※シェアードサービス(業務集約サービス)とは、複数の組織に共通の業務を、個々の組織から切り離して集中・統合し、別組織・会社化してサービス提供させることで経営の効率化を図る手法です。生産性の向上などによりコスト削減が図られるとともに、知識集約により専門性が追求され、サービス品質の向上も期待できます。



■会社概要

社名	エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社(略称:NTTビジネスアソシエ)
本社所在地	〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル7階
営業開始日	1999年(平成11年)7月1日
資本金	77.5億円
代表取締役社長	牧谷 嘉孝
主な事業	間接業務(経理・財務、人事・給与、福利厚生、住生活など)のコンサルテーション、アウトソーシング

株式インフォメーション

上場会社の株券電子化が2009年1月5日に行われました。また、当社は1月4日に株式を分割するとともに単元株制度を導入しました(1株を100株に分割、100株を1単元とする)。

株券電子化前に証券会社を通じて証券保管振替機構に預託されなかった株式や、単元未満株式(旧端株)については、当社が開設した特別口座に記録されています。

以下、特別口座から証券会社の口座への振替および単元未満株式の買取・買増についてご案内します。

※2月中旬に株主の皆様へ「株式分割および単元株制度導入のご通知」および「特別口座開設のご案内」を郵送しております。

Q 特別口座から証券会社の口座へ株式を振替えたいがどうしたらいいですか。

(特別口座では、株式の売買などを行うことはできません。まず、本人名義の証券会社の口座に株式を振替えたくて、証券会社において売買などを行うことになります。)

A あらかじめ証券会社で口座開設した後、当社の特別口座管理機関である中央三井信託銀行までお申し出ください。単元未満株式についても証券会社の口座へ振替えることが可能です。また、振替にかかる手数料はございません。

Q 単元未満株式(旧端株)を処分したいがどうしたらいいですか。

A 株式の分割および単元株制度導入に伴い、端株は単元未満株式となり、当社が開設した特別口座に記録されました。単元未満株式については、市場での売却ができませんが、当社に対して買取請求または買増請求を行うことができます。単元未満株式の買取請求または買増請求を行う場合、単元未満株式が記録されている特別口座の管理機関である中央三井信託銀行までお申し出ください。(すでに、単元未満株式を特別口座から証券会社の口座へ振替えられた場合は、振替先の証券会社までお申し出ください。)

特別口座管理機関のお問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行 証券代行部
NTT株主様専用番号: ☎0120-58-4400
代表番号: ☎0120-78-2031(平日9:00~17:00)

表紙の絵には「夢」という文字が隠れています。春は夢が膨らむ季節です。





株式インフォメーション

◎住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

【証券会社の口座に当社株式が記録されている株主様】

お取引先の証券会社へお問い合わせください。

【特別口座に当社株式が記録されている株主様】

当社特別口座管理機関の中央三井信託銀行へお問い合わせください。

◎住所・氏名の表記について

住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことができますのでご了承ください。

◎未払配当金の支払について

まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに中央三井信託銀行にお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

NTT株主様専用電話:  **0120-58-4400**

代 表 電 話 :  **0120-78-2031**

株主・投資家の皆様向けホームページ <http://www.ntt.co.jp/ir/>

NTT東日本・西日本

「電話サービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

(局番なし) **116** (NTT東日本: 午前9時～午後9時
NTT西日本: 午前9時～午後5時
年中無休 ※年末年始を除く)

「ブロードバンドサービス」に関する

お申し込み・お問い合わせは

0120-116116

(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関する
お申し込み・お問い合わせは

コール コール
0120-506506

(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTドコモ

総合お問い合わせ先/各種ご注文受付
(ドコモ インフォメーションセンター)

ドコモの携帯電話からの場合

(局番なし) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合

0120-800-000 (午前9時～午後8時 年中無休)

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

日本電信電話株式会社

